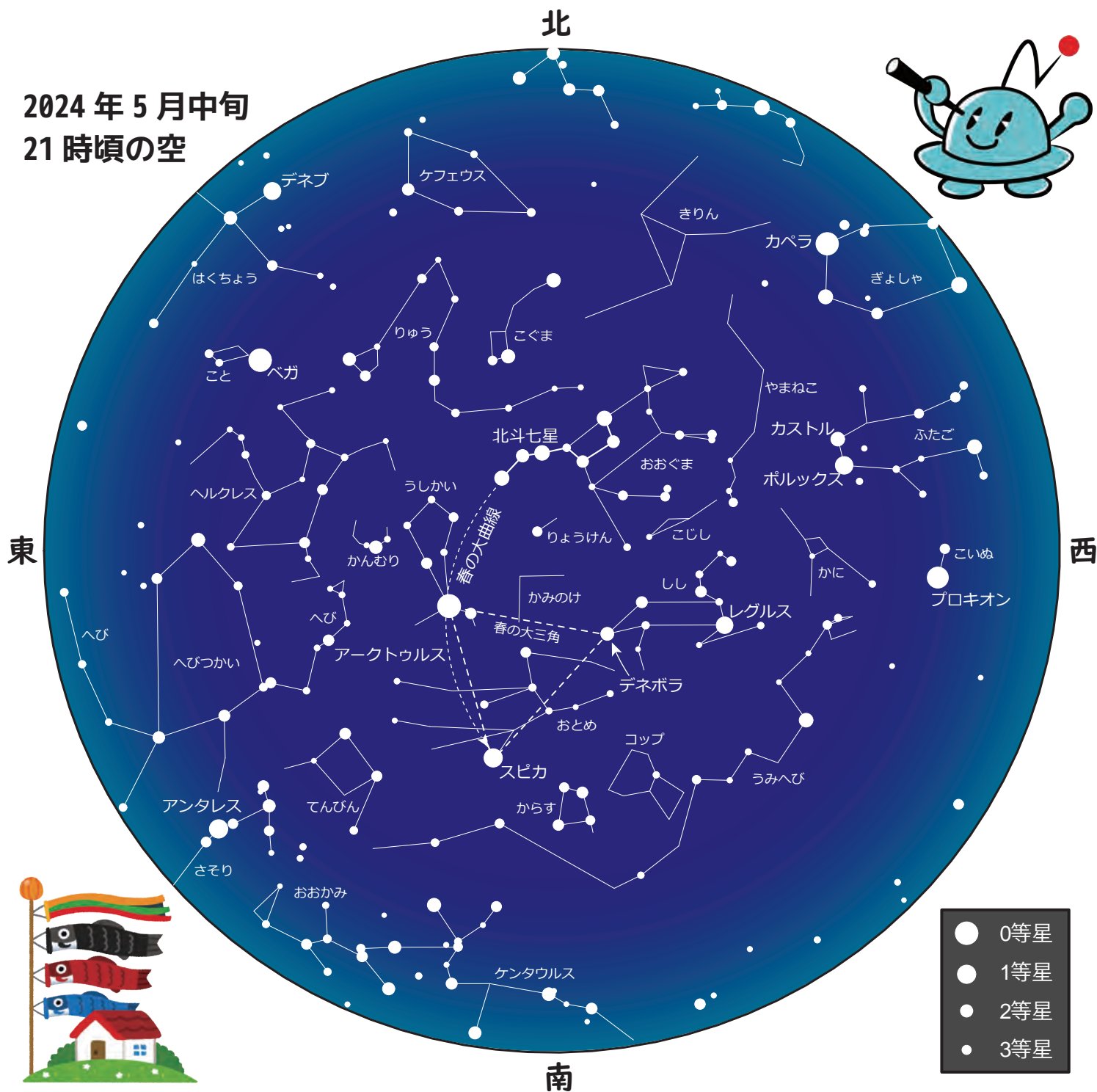


# 阿南市科学センター

# 5月の星空案内

2024年5月中旬  
21時頃の空



5月は春霞みも落ち着き、移動性高気圧の影響で晴れた日は透明度の良い空がひろがりやすく、天体観測に適した時期の一つです。北よりの空高いところを見上げれば**北斗七星**が見え、これを目印に**アークトゥルス**や**スピカ**といった春の明るい星たちを辿ることができます。なおアークトゥルスが位置するうしかい座の東側には**かんむり座**という星座あります。かんむり座は2～4等の星からなり、春の中では一番小さい星座ですが、半円状に整った姿が意外に目を惹きます。日本では地方によって半欠け星（ハンカケボシ）や車星（クルマボシ）などの愛称で親しまれてきました。ところで、東寄りの空には早くも夏の星座が顔を出し始め、ギリシャ神話の英雄**ヘルクレス座**などを見つけることもできます。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

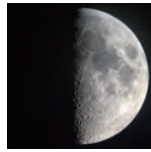
# 5月の月の満ち欠けと惑星について



下弦  
1日



新月  
8日



上弦  
15日



満月  
23日

## 5月の天体観望会で月が見える日時は？



5/11(土)・・・20時の回



5/18(土)・・・20時、21時の回

水星：上旬頃、明け方東のごく低空で見える。【約0.5等】

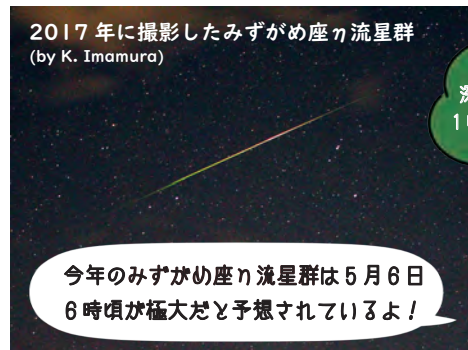
金星：見かけの位置が太陽に近く観察は難しい（6/4外合）。

火星：夜明け前、東の低空で見える。【約1.1等】

木星：見かけの位置が太陽に近く観察は難しい（5/19合）。

土星：夜明け前、東寄りの空で見える。【約1.2等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ上旬頃）。



## 天文現象

### 【頑張れ！紫金山・アトラス彗星】

2024年、注目の天文現象は何？と聞かれれば、やはり秋頃に大彗星になるかもしれない**紫金山・アトラス彗星**ではないでしょうか。国際天文学連合・小惑星センターの予報によれば、この彗星は今年9月下旬にかけ太陽に最も近づき（水星軌道付近）、日本では10月中旬頃から夕方西の空で観察がしやすくなるようです。予報通りいけば明るさは0～1等に達し、双眼鏡で容易にこの彗星の姿が確認できるかもしれません。

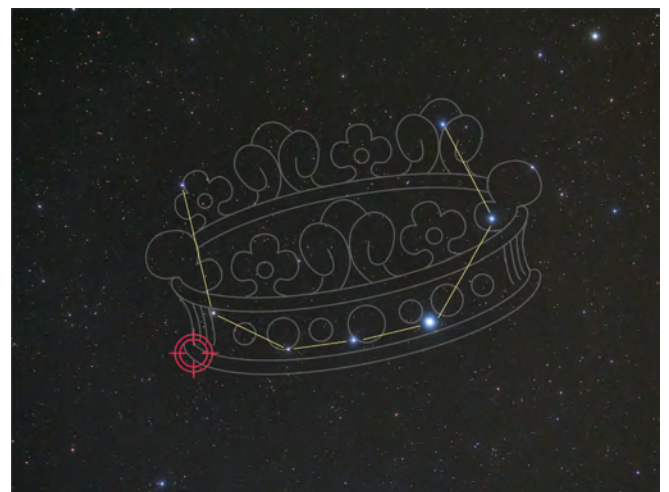
現在、紫金山・アトラス彗星はおとめ座に位置し、明るさはまだ10～11等と暗いですが、順調に明るさは増しているようです（写真ではすでに尾の存在がわかります）。当館の四国最大の望遠鏡のチカラを使えば、この彗星の現在の輝きを見ることができますので、今のうちから「秋にはもっと明るくなってよ～！」と、みんなで観察して応援しましょう！



2024年4月13日に四国最大の望遠鏡で撮影した紫金山・アトラス彗星の姿（口径113cm + EOS RP）。

## おもしろ天文学

### 【かんむり座の眠れる秘宝】



かんむり座とかんむり座T星の位置（赤印）

かんむり座は2～4等星からなる小さな星座です。一見地味に思えるかもしれませんが、この王冠には「眠れる秘宝」ともいべき星が息を潜めています。その名を「**かんむり座T星**」と言い、約80年の周期で爆発を起こす**新星**（反復新星）という種類の天体として知られています。新星とは白色矮星という天体の表面で突然核爆発が起き、劇的に明るさが増大する現象です（新しい星の誕生ではありません）。かんむり座T星は普段約10等の暗い星ですが、過去1866年と1946年に2回の新星爆発が確認されています。極大時の明るさは肉眼で見える2～3等に達するため、このときはかんむり座の印象が一変することでしょう。天文学者の間ではそろそろ爆発するのではないかと予想されているので、春の夜空を眺めるさいは、かんむり座に異変がないか、ぜひチェックしてみてください！